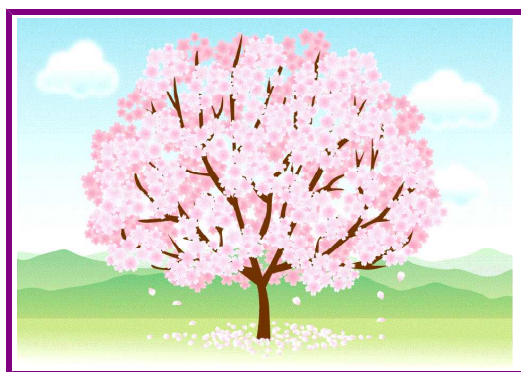


めぐみイエス・キリスト教会

2019年4月7日(日)第一主日礼拝
週報「通算第450号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年4月7日(第一主日礼拝)

第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時

司会・奏楽 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」 p. 150

【交読文】 No.31 詩篇第100篇 p. 904

【賛美Ⅱ】 新聖歌235「罪重荷を除くは」 p. 356

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.12「主イエスの十字架」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書18章8節～9節(新約p. 199上段)

【祈 禱】

【説 教】 《ひとりも失うことなく》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

※聖書箇所 ヨハネの福音書18章8節～9節

18:8 イエスは答えられた。「それは私だと、あなたがたに言ったでしょう。もし私を捜しているのなら、この人たちはこのままで去らせなさい。」

18:9 それは、「あなたが私に下さった者のうち、ただのひとりをも失いませんでした。」とイエスが言われた言葉が実現する為であった。

●ポイント1. 「この人たちは、このままで去らせなさい。」とは？

※マタイの福音書26章31節「主イエス様の預言から」 (新約p.51上段)

26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜、私のゆえにつまずきます。『私が羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散り散りになる。』と書いてあるからです。」

※ゼカリヤ書13章7節「紀元前五百年前の預言から」(旧約p.1431下段)

13:7 剣よ。目をさまして私の牧者を攻め、私の仲間の者を攻めよ。万軍の主の御告げ。牧者を打ち殺せ。そうすれば、羊は散って行き、私は、この手を子どもたちに向ける。

●ポイント2. 三つの共観福音書に書かれ、ヨハネが省略した場面とは？

※ルカの福音書22章47節～48節「ユダの口づけ」 (新約p.150上段)

22:47 イエスがまだ話をしておられるとき、群衆がやって来た。十二弟子のひとりで、ユダという者が、先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして、みもとに近づいた。

22:48 だが、イエスは彼に、「ユダ。口づけで、人の子を裏切ろうとするのか。」と言われた。

●ポイント3.「ただのひとりも失いませんでした。」とは？

※ヨハネの福音書17章11節～12節「主イエス様の祈り」(新約p.197下段)

17:11 「私はもう世にいらなくなります。彼らは世におりますが、私はあなたのみもとにまいます。聖なる父。あなたが私に下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それは私たちと同様に、彼らが一つとなるためです。

17:12 私は彼らと一緒にいたとき、あなたが私に下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。」

※ヨハネの福音書3章16節 「ヨハネの解釈から」(新約p.161下段)

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

※ヘブル人の手紙10章35節～39節「私たちとは？」 (新約p.401下段)

◎先週のメッセージの概要【誰を捜すのか?】

《夜半に一人、ヨハネ・マルコの家から出て行ったイスカリオテのユダは、ゲッセネマの園の主イエス様の所に戻って来ました。しかし、彼は一人ではなかったのです。ヨハネは、『ユダは一隊の兵士と、祭司長、パリサイ人たちから送られた役人たちを引き連れて』来たことを書き記しています。ここに書かれている一隊の兵士とは、ローマ兵たちであり、また百人隊長も一緒でした。

三つの共観福音書には、イスカリオテのユダの裏切る場面が描かれていますが、ヨハネは違った観点から、追加の記事を書き記したのです。

イエス様は自分の身に起ころうとするすべてのことを知っておられました。「誰を捜すのか。」「ナザレ人イエスを。」「それは私です。」

すると、立っていたユダと群衆はあとずさりし、そして地に倒れたのです。「誰を捜すのか。」主イエス様が語られた言葉は、単なる質問ではなく、この質問には、「私は誰なのか。」と言う霊的な奥義が込められています。

すると、彼らは答えます。「ナザレ人イエスを。」

イエス様は「それは私です。」と言われました。この言葉こそ、モーセがかつてホレブ山にて聞いた、主なる神様の答えそのものなのです。

「今、私はイスラエル人の所に行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました。』と言えば、彼らは、『その名は何ですか。』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」

「私は、『私はある。』という者である。あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『私はあるという方が、私をあなたがたの所に遣わされた。』と。

イエス様はご自身こそ、まことの神様であることを、彼らに示されたのです。

かつて律法学者や祭司長たち、ユダヤの指導者たちはこう質問しました。「自分自身を誰だと言うのですか。」

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、私はいるのです。」と、イエス様が答えられたこの言葉も同じです。

主イエス様は、何度もご自身が「誰であるのか」の問いに対して、答えられたのです。このお方こそ、生ける神の御子キリスト、救い主なのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は4月14日(日)です。また次回「聖書の学びと祈り会」は4月10日(水)午後6時15分からです。4月9日(火)鈴木師は、神学校入学式奏楽です。